

緒言

本派諸講社ノ中二十八日講ハ覺祖ニ濫觴シ番
方講ハ蓮祖ニ起因ス一ハ五百餘年一ハ四百餘



今相續ス是レ冥衆護持ノカアルニア
馬ソ能ク如是耐久スルヲ得ンヤ然リ
廿八日講ノ如キハ獨リ京都柏原氏一
家ニ止ル此番方講ハ本縣下蒲生神崎愛知犬上
阪田ノ五郡ニ亘リ其村落ハ數百其戸數ハ萬數



千而シテ其奉スルトコロハ願王ノ木像高祖大
師及歷世宗主ノ影像太子高僧ノ兩幅四軸ノ縁
起加之ナラス蓮祖ヲ始トシ諸宗主ノ消息悉ク
備具セスト云コトナシ實ニ盛ナリト謂ツヘシ
然リト雖モ盛者必衰ハ理數ノ免レサルトコロ
近時ニ至テ外形ハ猶盛ナルモ内部ハ頗ル衰ル
ノ狀アリ故ニ二三ノ道俗深ク之ヲ慨シ客年大
ニ有志ノ士ヲ會シ積弊ヲ釐正シ將ニ振起スル

トコロアラントス此ニ於テ數通消息ノ中從來
空ク收藏シテ人ノ法澤ヲ蒙ラサルモノ今回特
ニ之ヲ編シテ一卷トシ講内ノ信徒ニ頒タント
シ余ニ校合ノ事ヲ託ス乃チ本書ニ就テ魯魚ヲ
校シ以テ剗刷氏ニ附ス頃日刻成ル聊カ事縁ヲ
記シテ卷首ニ辨ス希クハ捧讀ノ緇素祖先カ山
科石山ニ在テ不惜身命法城ヲ嚴護シ眞影ヲ守
衛セシ古ヘヲ追想シ且ツ此編集ノ微志ヲ察シ

彌法味ヲ愛樂シ世出世兩道ヲ雙へ行ヒ共ニ遺
弟ノ念力ヲ盡シ此講ヲシテ遠ク龍華ノ嘉會ニ
達セシメラレンコトヲ

明治二十五年六月上澣

圓照寺住持慈音 誌

番方講 寶物 歷代御消息

蓮如上人御消息

ソシ人間ハユメマボロシノアヒダノスミカナ
シバゴノ世界ニテハイカナルスマ井ヲモシイ
カナルスガタナリトモ。後生ヲコ、ロニカケテ
極樂ニ往生スベキ身トナリナバゴシマコトニ
大果報ノ人ナリ。ソシニ付テコノ在所ニ番衆
ニサダマルコト。アナガチニ世間世上ノ奉公

ナシドノヤウニオモヒテハアサマシキコトナ
リ。ソノユヘハステニ番衆ニクハ、ルニヨリテ。
佛法ノ次第ヲ聽聞スルハアリガタキ宿縁ナ
リ。マタハ彌陀如來ノ御方便カトモオモハバ、
マコトニ今世後世ノ勝徳ナルベシコトニ人
間ハ老少不定ノサカヒナシバヒサシクタモ
ツベキイノチニモアラズ。マタサカンナルモノ
モ。カナラズヲトロフルナラヒナシバ。タバイツ

ギ後生ノタメノ信心ヲヲコシテ阿彌陀佛ヲ
一心ニタノミタテマツランニスギタルコトハ
アルベカラズ。サシバ彌陀ノ本願ニ歸スルニ
ツキテサラニ其ワヅラハシキコトナシ。アルヒ
ハマタ貧窮ナル人ヲモエラバズ。富貴ナルヲモ
エラバズ。ツミノフカキ人ヲモキラハザル本願
ナシバナリ。コシニヨリテ法照禪師ノ釋ニモ不
簡貧窮將富貴トモイヒ。又、不簡破戒罪根深

トモ釋セリ。コノ釋文ノコノロハ人ノ貧窮ト富
貴トヲモエラバズ。破戒ト罪ノフカキヲモエラ
バヌ彌陀ノ本願ナシバ。ワガ身ニトリテナニノ
ワヅラビ。ピトツモナシ。タゞ一心ニモロノクノ
雜行ノコノロヲナゲステ。一向ニ彌陀如來ヲ
信ジマヒラスルコノロノ一念ヲコルトコロニ
テ。ワガ往生極樂ハ一定ナリ。コノコノロヲ以テ
當流ニハ一念發起住正定聚トモイヒ。マタ平

生業成トモタツルナリ。コレスナハチ他カ行者
ノ信心ノサダマル人ナリ。コノ信心決定ノノ
チノ念佛ヲバ佛恩報謝ノ稱名トナラフトコロ
ナリ。アナカシコノク

延徳二年九月廿五日

當流ノ安心ト云ハナニヤウモナクモロノク
ノ雜行雜修ノ心ヲ捨テ。ワガ身ハイカナル罪

業ヲカクトモ。ソシヲバ佛ニ任セ參ラセテ。タ
一心ニ阿彌陀如來ヲ一念ニフカクタノミテヒ
ラセテ。御助ケ候ヘト申サシ衆生ヲ八十人ハ
十人百人ハ百人ナガラ。コトノクタクスケ給
フベシ。コレサラニ疑フ心ツユホドモアルベカ
ラス。カヤウニ信スル機ヲ安心ヲヨク決定セ
シメタル人トハ云ナリ。コノ心ヲコソ經釋ノ明
文ニハ一念發起住正定聚トモ平生業成ノ行

人トモイフナリ。サシバタノ彌陀佛ヲ一念ニフ
カクタノミタテマツルコト肝要ナリトコノ口
フベシ。コノホカニハ彌陀如來ノワレヲヤス
ク助ケ在ス御恩ノフカキコトヲオモヒテ行住
座臥ニツ子ニ念佛ヲマフスベキモノナリアナ
カシコアナカシコノ

實如御判

顯如上人御消息

番方惣中へ顯如

態深筆候。仍信長公ト和平之儀爲
禁裏被仰出互之旨趣種々及其沙汰候ヒ
キ。彼憤大坂退出之儀ニ相極候間。此段新門
主令直談候其後ハ禁裏へ進上ノ墨付ニ
モ被加判形候此和平ノ儀ハ大坂并ニ出
城所々其外兵庫尼壽之拘様兵糧玉藥以

下。此已來ノ儀不及了簡候。中國衆ノ儀岩
屋兵庫尼壽引退歸國候。今ハ宇喜多別心
ノ條海陸ノ行不可相叶由ニ候。夕トへハ當年
中ノ儀ハ可相拘故去リナガラ敵多人數取詰
長陣以後ハ扱ノ儀モ不成候。然時ハ有岡三木
同前ニ可成行事眼前ニ候。忽開山尊像ヲ
ハジメ。悉相果候ハ可爲法流斷絶事歎入
計ニ候。就其加思案。敬慮へ御請申候。如是

相濟候以後新門主不慮ノ企併イタツラモ
ノ、イヒナシニ同心セラシ報へ恣ノ訴訟中
中過法候將又予令隱居云云世務等更ニ
無其儀候佛法相續之儀猶以不及其沙汰
處諸國門下へ申フル、趣言語道斷虚言トモ
二候所詮 開山影像守リ申シ去又ル十日至
紀州雜賀二下向候間此ノ以來諸國門徒ノ
輩遠近ニヨラズ難路ヲシノギテモ 開山聖

人御座所へ參詣ヲイタサルベキ事可爲報
謝候抑人間ハ老少不定ノ界ニテ候世間ハ一
旦ノ浮生後世ハ永生ノ樂果ナシバ今生ハヒ
サシクアルベキコトニモアラズ候間急々雜
行雜修ノコ、ロヲステ、阿彌陀如來後生夕
スケ給へト頼ミ申人々ハ必々極樂ニ往生ス
ベキコト不可有疑候サテ此上へニ八行住座卧
二報謝ノ念佛申サシ候ベシ。如此決定セラシ候

ハハ。今度ノ往生極樂ハ一定ニテアルヘク候彌
無油斷法義嗜肝要ニ候猶刑部卿法眼可
申候也穴賢穴賢

四月十五日

顯如御判

江州中郡

番方惣中へ

番方惣中へ顯如

返々志ノ至リ難有コソ候へ能々各々
へ申傳ヘラシ候べく候猶々法義嗜下シ
候ベシ

金子拾枚ノボセラシ候路次不合期ノ處懇
志誠ニ以難有悦入候就中後生ノ一大事マデ
二候各々ハイカビ被心得候哉今生ハ一旦ノ
浮生ニテ候若不信ニテ命終候ハハ。永世可爲

後悔候能々心得ラシ候テ。一日モ片時モ急
キ他力ノ信心可有決定候。サシバ信ヲトル
ト云ハ只雜行雜修自カヲ捨テ。一心ニ阿彌陀
如來後生御助ケ候ヘト頼申ス人々ハ皆悉ク
極樂ニ往生スベキコト不可有疑候。カヤウニヤ
スクタスケマシマス事ノアリガタサ。タフトサ
ニハ行住座卧ニ念佛申サシ候ベシ彌佛法ノ
一義無油斷嗜三肝要ノヨシ惣中へ惣ニ披

露セラシ候ベク候アナカシコノ

十二月十七日

顯如御判

江州中郡

番方惣中へ

態ト染筆候。仍テ當講衆ノ義中古已來無
番方惣中へ顯如

退轉法義ヲ嗜ニ累年ノ厚志誠ニ難有覺
ヘ候處此頃不信ノ族色々ニ申シ妨ケハシ
ハシ引退候ヨシ其聞ヘ候於事實者太不可
然事候且ハ無興隆ノ義ニ候第一佛法ニ疎遠
ノ故ニ候歎早々翻不足之心中彌其講繁昌
候様ニ各心ガケ肝要ニ候同心ナキ輩ハ不可
爲門葉之驗候猶節々會合アリテ信心決定
候テ極樂ノ往生ヲトゲラルベキコトアリガタ

ナルベク候委細刑部卿法眼可申傳候也ア
ナカシコク

十二月十九日

顯如御判

江州

番方惣中へ

准如上人御消息

江州中郡番方惣中へ准如

爲志銀子百兩隨到來難有候。誠各連々懃
意ノ至併面々法義ヲ大事ト被心得候ニ
ヨリテ。加様ニ念頃ノ儀共實ニ悦入候。向後
無退屈猶々馳走頼入訖候就其義無油斷
細々ニ被談合候ハシ事自何モテ予ガ本望不
可過之候。就中當流ノ安心ノ趣ハサラニ男女
老少ヲエラバズ。唯雜行雜修ノコノロヲサシ

オキテ。一心ニ阿彌陀如來後生御助ケ候ヘト
ヒシト頼申人々八十人モ百人モ皆悉クモ
ラサズタスケタマフベシ。コシサラニ不可疑此
上ニハ命ノアラシカギリハ。子テモサメテモ念
佛可申。コレコソ誠ニ佛恩報盡ノツトメタル
ベク候。右ノ旨能々惣中へ披露セラシ候ベシ
アナカシコノク

正月廿五日

准后御辨

江州中郡

番方惣中へ

遺流衆中

寂如

態深筆候。然バ各佛法ニテ、口ガケ。深重之
通傳聞宿善開發ノユヘト悦入候。抑念佛ノ
法門ハ更ニ智恵才覺モイラス。偏ニ佛智不

思議ノ願力ニ乗ジテ。往生治定ノ機トハナル
モノナリ。夫機ヨリ成ズル大小乗ノ教ハ斷惡
證理ノ徳ニヨリテ。成佛得道スル法ナレバ末
代凡夫ハタヤスク成ジガタカルベシ。然ルニ
此淨土ノ一法ハ薄地底下ノヤカラナリトモ。
雜行雜善自カノ執情ヲフリステ、一念疑ナ
ク彌陀ニ歸命シタテマツシバ即正定聚ノ數
ニ入ガユヘニ命終トヒトシク必至滅度ノ利

益ニアツカルモノナリ。サテ此佛恩報盡ノ夕十一
メニハタバ南無阿彌陀佛ノ、ト稱名念佛
スベシ。此意ヲ正信偈ニイハク憶念彌陀佛本願
自然即時入必定。唯能常稱如來號應報大
悲弘誓恩ト。アシバ信心發得ノ人々ハ安養
ニイタリテ妙果ヲ證スベキコトヲヨロコビ。同
行會合ノ折カラハ餘事ヲマジエズ。餘念ヲト
ドメテ。法義ノ談合油斷アルマジキ事。肝要

タルベク候定賢々々

仲秋下旬

寂如御判

江州

番方衆中江

住如上人御消息

夫法藏因位ノ願行彌陀果上ノ功德。三十六

字ノ中ナカニコメヲキテ。イカナル罪業ザイゴフノ衆生シユシヤウモ
 一念イチナムノ立タチドコロニ轉テ惡アク成ジツ善ゼンノ大益ダイヤクヲ得トクセ
 シメ給タマフフ。是コレニ依ヨリテ至シ德トクノ尊號ソンガウヲ聞キ疑ギ心シン自ジ力リキ
 ノサハリツキテ。タノム歸命クキミヤウノ信心シンシン發ホチ起キスル
 モノハ。如來ニヨライノ心光シンクワウニ照護セウゴセラシ。生死シヤウジノ迷永マヨヒナガ
 クヘダツ。是故コレズベニ經キヤウニハ念ナム佛ブツ衆生シユシヤウ攝セフ取シユ不捨フシヤ
 ト。說トキ又マタ橫截ワウセチ五惡ゴアク趣シユ惡趣アクシユ自ジ然ニ閉ヘイトモイヘリ。
 誠マコトニ一文イチモン不知チノ男女ナンニョマテ。我ワガ修行シユギヤウヲカラズシ

テ。速スニ娑婆シャバ永劫ヨウキヤクノ苦クヲ捨ス淨土ジユト無為ムヰノ樂ラクヲ
 ウクルコト。何ナニノ歡カンカコシニスギン。然シカハ法義ホフギ
 ヲノツカラ。イサミ有アリテ。圓滿エンマンノ德號トクガウヲ稱念シヤウナムシ。
 大慈ダイヒ弘誓クワシノ恩オンヲ報ホウズベキモノナリアナカシ
 コアナカシコ

季秋上旬

住如御邦

江州

法如上入御消息

夫生死ノ家ニハ疑ヲ以テ所止トシテ涅槃ノ
 都ニハ信ヲ以テ能入トストシメセリ。サレハ一
 念ノ心法ヨリ惡業ヲ作シバ六道ノ街ニテヨ
 ヒ出離ノ期アル事ナシ。依テ疑ヲ以テ所止ト
 シテ。テヨヒニ迷ヲ重ヌ。ウタガハバ夜繩七蛇ト

ミヘ。空宅ニモ鬼ヲ見ルハ一念ノ疑ヨリ起ル。六
 ガノ諸佛ノ廣舌ヲノベテ證誠護念シ給フ
 モ衆生ノ疑ヲ斷セシメニガ爲ナリ。疑ヲステ
 ハナシ來世ニ於テ極樂無爲ノ樂ヲ得ズンバ
 イツ生死ノハテアラシヤ。依テ正信偈ニ還來
 生死輪轉家。決以疑情爲所止。速入寂靜無
 爲樂。必以信心爲能入トアラハシ給ヘリ。サ
 シバ其信ト云ハ則南無阿彌陀佛ナリ。雜行雜

善ノアシキハカラヒヲヤメ。阿彌陀如來ヲ觀
三。往生治定ノ覺悟ヒラケナバ。臨命終時ニハ
涅槃ノ都ニ至リ。彌陀同體ノサトリヲ得ベシ。
當流ノ門葉此趣ヲヨクノ心得ワケハヤク
安心決定シイヨクノ法義ヲ大切ニ存シ。報謝
ノ稱名油斷アルマジク候ナリ。アナカシコノ

寛延二年仲春下旬

龍谷寺務法如御判

江州

番方講江

文如上人御消息

夫當流相承ノ旨趣トイフハ。中興上人五帖
ノ消息ヲ龜鑑トシ。改悔出言ノ如ク心得ラ
し候ハ。目出度安心ニテ候ベシ。サリナガラ
口ニ其文ヲ誦ストイヘドモ。口ニ其覺悟ナ

クシテ心口各異セバ。報土往生スベカラズ。一
 大事トイフハ是ナリ。若コノタビ生死ヲマヌガ
 シズバ。イツシノ劫イツシノ時ニカ。三界ヲ出過
 セン。假令フタ、ビ南浮ノ人身ヲ感ズト云ヘ
 ドモ。彌陀超世ノ本願ニマフアヒタテマツルコ
 トナクバ。永ク三有二輪廻センハカナシカルベ
 キコトナリ。サシバ各々正化ヲアヤマラス。聽
 聞ニヨヨバシ安心ヲヨクノトラルベキナリ。

其安心ヲトルベキオモムキハアナガチニ我身
 ノツミノフカキニモ心ヲカケズ。雜行ヲ修スル
 心ヲヤメテ一心ニ彌陀如來後生ノ一大事御
 タスケ候ヘト一念ニフカクタノミ奉シバ。其折
 ヲサラズシテ如來ハ心光ヲモチテ攝取シ給フ。
 ヒトタビ此光明ニヲサメトラシタラシ身ハ。其
 絶息閉眼ノタニハ必ス淨土ニ送り給フコト
 露ホドモ疑ヒ有ベカラズ。此アリガタサヲ思ハ

バ恒時ガツジニ念佛ブツシテ佛恩ブツオン報謝ホウシャシ奉ルタテマツベキモノ
ナリ。是コレハコレ相承サウジヤウ安心アンジンノ趣マエヲ申マエバカリニ候返サツラク
ス返カヘスモオノノウツクシク安心アンジンヲトラシ候サツラク
ヒテ。刹那セチナニチカツク往生ワウジヤウヲ期ゴセラシサアラハ
ニゴト。肝要カンエウニ候サツラクアナカシコノノ

寛政三辛カンセイサイシン秋七月廿五日

龍谷第十八世

釋丈如御判

江州

番方講中

本如上人御消息

ソモノ、江州中郡番方講ノ事ハ

中興上人ノ比ヨリ退轉タイテンナク相續サウジツセラシソシ
ヨリコノカタ代々ノ上人消息シヤウシマシノクテ。子モ
ゴロニ當流安心タウリウアンジンノ旨趣シヤウシヲ示シメシ玉タマヒキコシニ

ヨリテコタビ予ニモ消息セヨトノ求ニマカセ
テ。文筆ノ拙ヲモカヘリミス。當流相兼ノ安心
ノ趣ヲ申シ示シ候也。ヨク／＼聽聞ニ及バシ。
イソギ信ヲトラシ候様。深く希思フ所ナリ。
其故ハ老少不定ノ娑婆界中ニ住ナガラ。タ
ダイツモ。カクアラント。大ヤウニ心得テ。ケフト
クラシ明日ト過シツ。見佛聞法ノムシロニ
連リナガラ。タゞ外相計リヲ人マ子ニツクロフ

トモ。内心ニ決定ナクバ。今度ノ報土往生ハカ
ナフベカラズ。カクウケガタキ人界ニ生ラウケ。
他カ易往ノ本願ノイハシヲ聞ナガラ。タゞウ
カウカト暮サンコト。カヘスノ、モ勿体ナキ次
第ナラスヤ。サシバトク安心決定セラシ。常ニ
報謝ノ稱名ヲトナヘ廣大ノ御恩ヲヨロコビ
奉ルコト肝要ニ候也。抑當流安心ト申スハ
別ニ珍ラシキ子細モ候ハズ。朝暮不斷ニ示ス

如クモロノノ雜行雜修自カノコ、ロヲ捨
離シ一心一向ニ阿彌陀如來我等ガ一大事ノ
後生御助ケ候ヘト。ウタガヒナクヲモシ。パカ
リナクタノミ奉ル計リナリ。此一念ニ往生ハ
ハヤ治定シ畢ヌ。コ、ニライテ無有出離之縁
我人大悲ノ願カニヨルガ故ニ終焉ノタタ
チニ安樂淨土ニ往生ヲトゲ涅槃ノ大果ヲ
得シコトナニノ疑カアラコ。カ、ル不可思議

ノ本願ニ値遇シ奉ルコトノアリガタサヨト。
行住座卧ニ南無阿彌陀佛ノト稱名念
佛シテ

佛祖洪大ノ御恩ヲ報謝シ奉ル計リナリ。カ
カル上ハ王法國法掟ノ如クカタク相守リ
ウツクシク法義相續セラシ候様希所ニ候
也アナカシコノ、

文政二己卯 忝仲夏廿四日

龍谷寺務釋本如御判

江州

番方講中

廣如上人御消息

夫ソラノ^{オミ}惟^ミ凡^ソ生^シアル物^モハ必^カズ死^シニ歸^ル
スルコトハ上^{カミ}ハ大^{ダイ}聖^{セイ}世^セ尊^{ソン}ヨリ下^{シモ}ハ惡^{アク}逆^{ギャク}ノ
提^{ダイ}婆^バニイタルマデノガシガタキハ無^ム常^{ジョウ}ナリ

ト信^{シン}證^{テイ}院^{イン}ハ示^シ置^キ給^{ケル}ヘリ。今^{イマ}各^{カク}ウケガタキ人^{ニシ}
界^{カイ}ニ生^シラウケ値^チガタキ佛^{ブツ}法^{ホフ}ニアフトイヘ凡^ソ
八^{ハチ}萬^{マン}ノ教^{ケウ}法^{ホフ}ミナコシ自^ジ力^{リキ}ノ行^{ギョウ}ニシテ。末^{マツ}代^{ダイ}
濁^{ダク}世^セノ凡^ボ夫^フ五^ゴ障^{ショウ}三^{サン}從^{ジョウ}ノ女^メ人^{ニシ}ハ。イカデカ。其^{ソノ}
行^{ギョウ}ヲ修^{シュ}ミ。サトリノ道^{ダウ}ニイタルコトヲ得^ユンサ
シバ生^シ死^シ出^デ離^リノ道^{ダウ}タエテ。永^{トウ}ク三^{サン}途^ツニ沉^シミ
果^ハテナシコト。今^{イマ}マノアタリナリ。シカルニ阿^ア
彌^ミ陀^ダ如^ニ來^{ライ}ヒトリ深^{フカ}クアワシミマシノクテ。五^ゴ

劫ニ思惟シ永劫ニ修行シ給ヒテ。願行ヲ善
薩ノカタニ成就シ。感果ヲ衆生ニアタヘタ
マフ御姿コソ。則チ今ノ南無阿彌陀佛ナシ
コノユヘニ經ニハ超發無上殊勝之願トキ。
善導ハ別異ノ弘誓ト釋シタマフ。サシバ時ハ
ステニ末法濁亂ナシド。今ナム。專ラ彌陀利益
ノ盛ナリ。處ハマタ粟散片州ナシドモ。大乘經
典相應ノ地ナリ。コトニワカ祖師相義ノ一門。

他カ易往ノ安心ハ賢愚ヲ論ゼズ。男女ヲエラ
バズ。布施ヲ行セヨトモチカワズ。身命ヲ捨ヨト
モ教ヘズ。タゞモロクノ雜行雜修自カノ心
ヲフリステハ。一心一向ニ彌陀一佛ノ悲願ヲ多
ノミ。我等ガ今度ノ一大事ノ後生助ケマシマセ
ト。疑ナク思フ一念ノ信心ヒトツニテ。ヤスク淨
土ヘハマイルベキナリ。此信心ヲ得タラン行者
ハ。攝取不捨ノ光益ニアツカリ。ソノ身ハ娑婆界

二在ナガラ如來淨華ノ聖衆ニ入テ正定聚不
退ノ位ニ住セシメ給フナリ。豈歡ハザランヤタ
フトミザランヤハ。然ルニ其講ノ人々ヲサノク
此道理ヲ聽聞ニ及ビ美敷法義相續ノ上ヨ
リ。報謝ノ稱名怠リナキコト。是全ク宿縁ノ催シ
トハ申ナガラ。娑婆受生ノ大幸。何事力是ニ
シカン。サリナガラ忘しヤスキハ浮世ノ習ナ
シバ。幾度モノク聽聞シテ。堅固ノ信心ヲトラ

ルベク候カ、ル人ヲコソ聖人ハ御同朋御同
行トモ仰ラシ候ナシ。サシバコノ安心ノヲモム
キヲシカノクト領納セズシテ。名ノニ同行ト
ヨバシ人モ是アラバ何ノ益カアラン。然シバ
不信ノ人モ速ニ相承ノ安心ヲ領解シテ。誠ノ
御同朋御同行トナリ候ハ。イカホトカ聖人
ハヨロコビ給ハザルベキ。爾シハ先德ノコトバ
ニモ。タトヒ万劫ヲ經トモ一端ヲモ報ジカタシ。

シカジ名願ヲ念ジテ彼本懐ニ順ゼンニハト
アレバ、イヨク行住座臥ニ忘失ナク無涯
佛恩ヲ報謝シ奉ルベク候此外ニハ定メ置ル
提ノ趣キ相守リ仁義ヲソムカザル様心得ベ
キモノナリ。アナカシコノ

文政十一戊子年四月上旬

龍谷二十世釋廣如御判

近江國番方講

明如上人御消息

抑番方講ハ往昔ヨリノ由緒淺カラズシテ。歴
世ノ宗主文書テ教示シ給フコトハナリヌ。
サシバ講中ノ面々其由縁ヲノミ名望ニ思ヒ
テ幾卷々ノ消息モ。タゞヲホヤウニ聽聞アラ
バ。世々ノ宗主ノ志モムナシクナリ。ナケカシキ
コトニアラズヤ。予モ先蹤ニ倣セ筆ヲ添申シ
ノベ候下。能々聽聞アルベク候情ヲモシニル

ニ我人スクセノ善因ニ依テ。稀ニ人身ヲウル
トイヘドモ。貴賤上下其品同ジカラス。貧富
アリ。智愚アリ。シカルニ今。文明開化ノ秋ニアヒ
タトヒ爪木コル賤漁ル海士ニムマルトモ。勉強
ニ依テハ。國家ノ輔佐トモナラヌヤハサシ
バ内外ノ書籍ニ眼ヲサラシ。古今ノ沿革ヲ
カシガヘ。愛國人道ヲモト、シ。造次ニモ願沛ニ
モ。國家ノ御裨益ニモナラバヤト。心ガケ。神德

ノ尊ヲヲモヒ。敬神ノ誠ヲ盡シ。皇上奉戴ノ心
ニ住シ。朝旨ニ違背有マジク候。シカリトイヘ
ドモ。トカク弊習トテ。心口各異ノ族スクナカ
ラス。實ニ勿体ナキコトニ候。億兆保安ノ慮
ニコソマシマセ。ナドカ。民ヲシテ疾苦ニヲトシ
メ給ハンヤ。此旨能ク心得ラシ候ヒテ。文明維
新ノ化ニシタガヒ。開化進歩ヲヨロコビ。上ハ天
恩ノ萬一ヲ謝シ奉リ。下ハ孝養ノ一端ヲ盡シ。祖

先ノ家名ヲ千載ニカバヤカサバ。此上ノ忠孝
ハアルマシク候殊ニ我真宗ハ。王法爲本ノ教
ナシバ。速クハ中祖ノ勸章。近クハ前住ノ遺訓
ニモトツキ。内ニハ相承ノ安心ヲ獲得シ。外ニハ
世有常道ノ金口ニモトラス。美敷法義相續有
ベク候。其安心ト云ハ。雜行雜修自力回向ヲス
テハナシ。一念ニ疑ヒナク。彌陀大悲ノ本願ヲ
フカク信シ奉ル計リニテ。佛ハ不可稱不可說

不可思議ノ大功德ヲアタヘマシマスベシ。カ
ルガユヘニ行者ノ方ニ於テハ。ナサヌ回向ナル
ガユヘニ。不回向トハ申スナリ。カヘスノ、モ凡
夫畫水ノ迷情ヲ捨テハナシ。タノム一念ノタ
チドコロニ。往生治定御タスケ一定ト領解セ
ラシ候ハ。絶息閉眼ノ夕ニハ涅槃ノ彼岸ニ
イタラシメ給フコト。ナニノ疑カアラシ。此信全
ク佛智回施ノマコトナシバ。自然ト多念ニ相

續シテ。報謝ノ稱名。怠慢アルベカラズ。サシバ
此信心正。因稱名報恩ノ宗意ヲトリアヤマ
ラス。今世後世トモニ相承ノ宗風ヲ相守リ。上
ニモ示ス如ク皇國ノ民。眞宗ノ門葉ニテ候ヘ
バ。殊更ニ敬神尊王ノ誠。孝悌忠信ノ道ニ違ハ
ズ。職業ヲ勉勵シテ。イヤマシニ此講社繁昌
アシカシト。希フ所ニ候ナリ。アナカシコトク。

明治六年七月十一日

本願寺廿一世住職

大教正大谷光尊御判

近江國中郡

番方講

明治廿五年九月廿五日印刷
同年同月廿六日出版
定價貳拾錢

版權登錄

編輯者

水原慈音

近江國大上郡高宮村百六十三番地平民

發行者

河村九藏

近江國愛知郡愛知川村大字番掛八十七番地平民

發行者

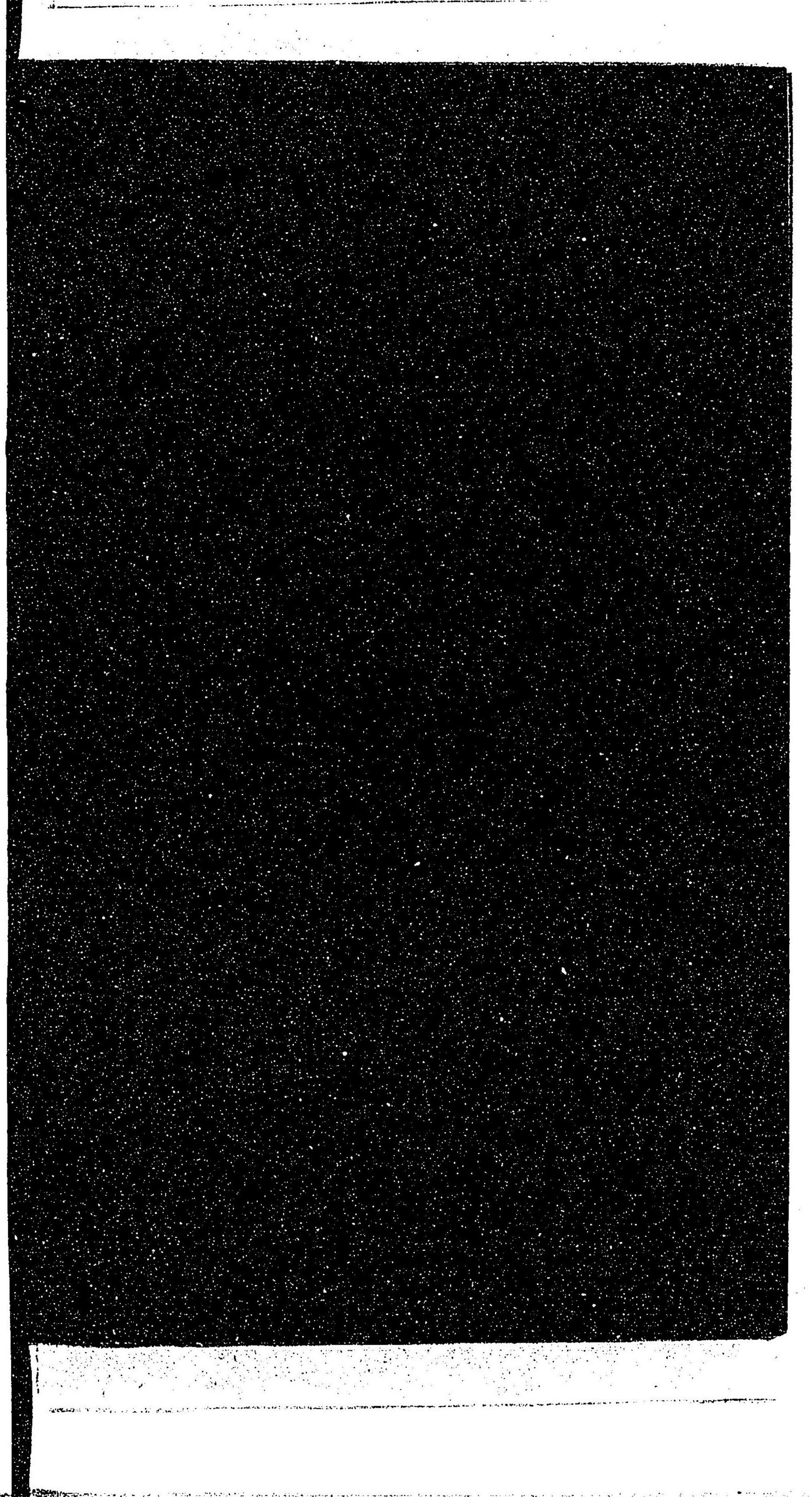
小堀孫次郎

同 國大上郡千本村字大堀十五番地平民

印刷者

野口源六

同 國坂田郡鳥居本村字鳥居本二百廿番地平民



特36
24

019256-000-1

特36-24

歴代御消息

水原 慈音/編

M25.9

ABF-2854

